



NIIでは、NACSIS-CAT目録担当者が、CAT2020以降も必要とされる様々な書誌事例の登録・修正に対応可能な知識・技術を修得することを目的として、2015年度から『目録システム書誌作成研修』を開催しています。

この教材では、実際に使用した課題を使って、本研修の内容を紹介します。

目録システム書誌作成研修とは


研修の目的

1. 多様な書誌事例について理解を深める
2. NACSIS-CATの円滑な運用に必要な知識・技能を修得する
3. CAT2020にも対応できる総合的視点を身につける

この研修は、目録所在情報サービス参加機関において書誌登録・書誌修正を行う目録業務担当者が、多様な書誌事例について理解を深め、総合目録データベース（NACSIS-CAT）の円滑な運用に必要な知識・技能を修得することを目的としています。更に、NACSIS-CAT再構築後の目録運用に対応可能な総合的視点を身につけることを目指しています。


目録システム書誌作成研修とは

到達目標



適切なツールを参照して
書誌を作ることができる

目録情報の基準
コーディングマニュアル
各種資料取扱いマニュアル
公開電子資料アーカイブ
etc.



他の目録担当者にツール
の提示等の支援ができる

本研修での到達目標は、目録情報の基準、コーディングマニュアル、各種資料取扱いマニュアル、公開電子資料アーカイブ等適切なツールを参照しながら、NACSIS-CATへの書誌作成・書誌修正を円滑に行うことができるようになることです。また受講後に、他の目録業務担当者に対して、参照すべきツールの提示等、事例に応じた支援ができるようになってください。

目録システム書誌作成研修とは

受講条件

1

NII
目録システム講習会
受講済 ※1

セルフレARNING
(SL)教材 CAT編
学習済 ※2

2

**目録業務
経験通算 1 年
以上** ※3

※1 目録システム講習会は平成27年度で終了しています
※2 図書コース、雑誌コースのいずれかでも構いません

※3 書誌データ内容自体の作成や修正はしていない場合は業務経験として扱いません

セルフレARNINGを初級とするならば、本講習会としては中級レベルを想定しています。受講対象者は、下記の2つを満たす方です。

1つ目は、「NIIの目録システム講習会、または、「NACSIS-CAT/ILL セルフレARNING教材（CAT 編）」図書コースもしくは雑誌コースの、いずれかの学習を修了していることです。NIIの目録システム講習会は平成27年度をもって終了しているため、未受講の方はNACSIS-CAT/ILL セルフレARNING教材（CAT 編）にて学習を行ってください。

2つ目は、目録業務の経験が通算で1年を超えていることです。なお、NACSIS-CATへの所蔵データ登録のみ、書誌データのローカルシステムダウンロードのみ、またはそれらの双方のみの場合、すなわち、書誌データ内容自体の作成や修正はしていない場合は、ここで述べる目録業務経験として扱いません。

また、条件としてはあげていませんが、目録作業担当者を管理する立場にある方の場合、この研修を受けた後に所属機関への目録作業担当者へのフィードバックをどのように行うかを念頭に置いて受講を検討してください。

目録システム書誌作成研修とは

研修内容

The diagram illustrates the scope of the training. It shows a spectrum from '図書' (Books) on the left to '雑誌' (Magazines) on the right. Key examples include '版と刷の区別' (Edition and printing distinction), '著者標目' (Author heading), 'オンデマンド版' (On-demand edition), and '古典籍' (Ancient books). Specific systems mentioned are 'NCR2018' and 'ERDB-JP'. A dotted line indicates '図書と雑誌の境界にある資料' (Materials at the boundary of books and magazines). A specific example of a magazine is '電子ジャーナルに切り替わった雑誌' (Magazine replaced by an electronic journal). A difficulty scale at the bottom shows a range from 3 stars to 5 stars.

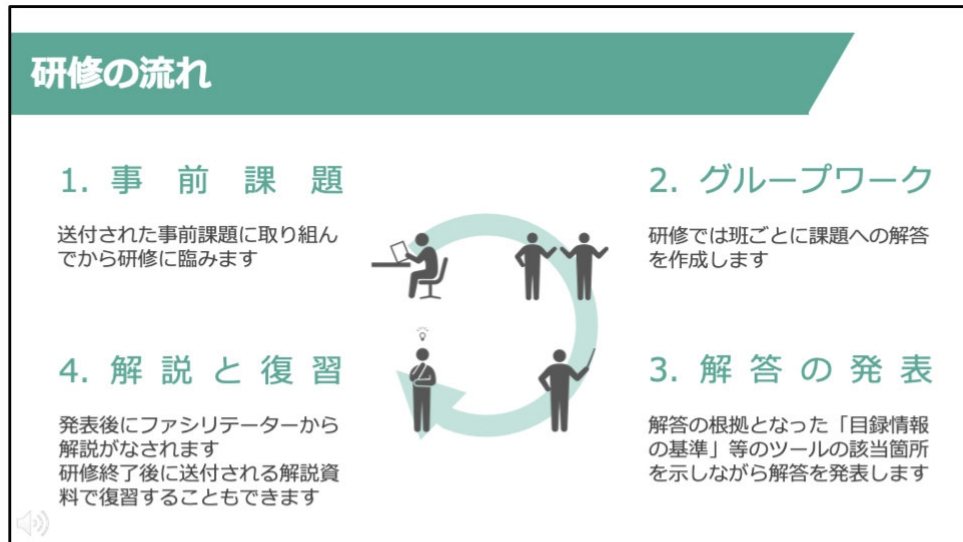
研修では、画面に挙げたように、図書・雑誌の区別なく様々な事例を取り扱います。

目録システム書誌作成研修とは

研修内容

This diagram highlights materials that require original catalog creation or correction of record content. It includes '版と刷の区別' (Edition and printing distinction) and '電子ジャーナルに切り替わった雑誌' (Magazine replaced by an electronic journal). A central box states 'オリジナル書誌の作成や記述内容の修正が必要となる資料を扱います' (We handle materials that require original catalog creation or correction of record content). A difficulty scale at the bottom shows a range from 3 stars to 5 stars.

全体として、NACSIS-CAT再構築後においてもオリジナル書誌の作成や記述内容の修正が必要となる、特殊性のある資料の取扱い方・電子版資料に関わる課題等に取り組みます。



研修は大きく4つのステップに分かれます。

まず、事前に課題が送付されるので、受講者の皆さんは各自の解答を準備して研修に臨んでください。

研修当日は、受講者の方はいくつかの班にわかれます。班ごとのグループワークで、各班で一つ解答を作成していただき、発表します。

発表にあたっては、解答の根拠となった「目録情報の基準」や「コーディングマニュアル」の該当箇所を示しながら、進めていただきます。

発表後にはファシリテーターから解説がなされます。また、研修終了後に、受講者の皆さんに解説資料が送付されます。参加された方はそれらの資料によって、実習内容を復習することができます。



それでは、実際に課題例を見てみましょう。
平成28（2016）年度書誌作成研修の出題課題です。

課題

図書・雑誌目録に登録されている同一資料の利用について

難易度 ☆☆☆

資料の中には、図書・雑誌で整理できるものが存在する。例えば、ISBN とISSN 両方付記された資料、ISSN や巻号があるのに固有のタイトルを毎号持つもの、本誌と臨時増刊、電子ジャーナル・電子ブックそれぞれの書誌をもつ海外のモノグラフシリーズなど、事例は幅広い。

その目録の採用方法については、各図書館の方針によるところが大きいが、総合目録データベースにおいては、図書、雑誌、どちらにも書誌を作成できる。CiNii Books においては図書レコードと雑誌レコード双方の検索結果（所蔵情報）が出てくる。

利用者の利便性を考えるとどのような登録方法が望ましいか考えよ。なお議論にあたっては書誌と事例をあげて議論を展開すること。



図書と雑誌の境界線上にある資料についての課題です。

NACISIS-CAT上は図書書誌データセットと雑誌書誌データセットのどちらに書誌を作成しても構いませんが、どのように判断したらよいでしょうか。

議論の対象とする書誌について、左側のリンクから情報源を確認することができます。

それぞれの事例について、図書と雑誌のどちらで整理することが適切か考えてみましょう。

解答の考え方

根拠となる規則類を参照する



HINT

- ・ 「目録情報の基準 第5版」 2.2 書誌ファイル
- ・ 「目録システムコーディングマニュアル」 7.0、 23.0



刊行方式を判断する



HINT

- ・ 図書にするか？雑誌にするか？
- ・ 参照した規則をもとに判断理由を説明してみましょう



書誌の記述内容を考える



HINT

- ・ 注記は必要？
- ・ リンク形成はどうする？



課題の回答にあたっては、まず根拠となる規則類を確認しましょう。これは、研修で他の課題に取り組む際も同様です。

確認が終わったら、今回の課題の場合は、規則類の記述をもとに図書にするか雑誌にするか判断してください。その際、規則のどこを参照したのか、その規則を各事例に対してどのように適用したのかを説明できるように考えをまとめてみましょう。

また登録にあたっては、書誌レコードに必要な量の情報を記述しなければなりません。利用者の利便性を考えると、どのように書誌を記述するのが適切か考えてみましょう。



それでは、解答を考えてみましょう。

解説

● 規則類を参照する

● 刊行方式を判断する

● 記述内容を考える

目録情報の基準 2.2.1 図書と逐次刊行物

[...]モノグラフシリーズ等、両者の境界領域の資料は、**双方のデータセットにデータを作成することが望ましい**。すなわち、図書データセットに一つ一つのモノグラフのデータを、また、雑誌データセットにモノグラフシリーズ全体のデータを作成する。

ただし、境界領域の資料について、参加組織が一方のデータのみを作成する場合は、以下の基準によることができる。[...]

図書と雑誌、どちらの書誌にするか、根拠になる規則として「目録情報の基準」2.2.1 図書と逐次刊行物があります。

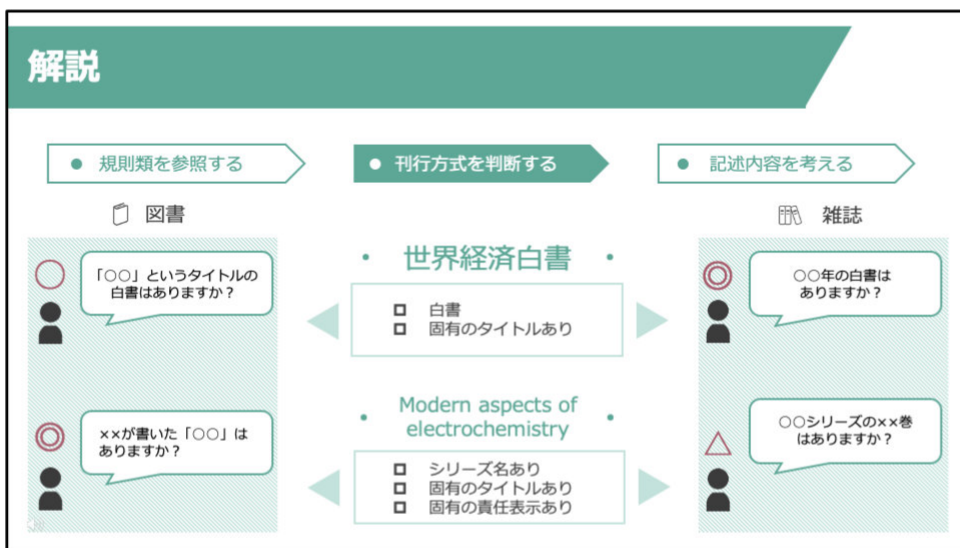
この課題で取り上げている両者の境界領域の資料は、「双方のデータセットにデータを作成することが望ましい」とされていますが、どちらか片方だけ作成する場合の選択基準も挙げられています。



解説部分にある「境界領域の資料の個々の巻号に固有のタイトルが存在する場合、個々の巻号の単位の書誌情報の記録・検索を保証するために、図書扱いが望ましいことになる」がもっとも分かりやすい基準といえます。

逆に、個々の巻号に固有のタイトルが存在しない場合、図書ファイルにおいては、個々の巻号の所蔵状況の検索は困難です。従って、所蔵情報の記録・検索を保証するためには、雑誌扱いが妥当となります。

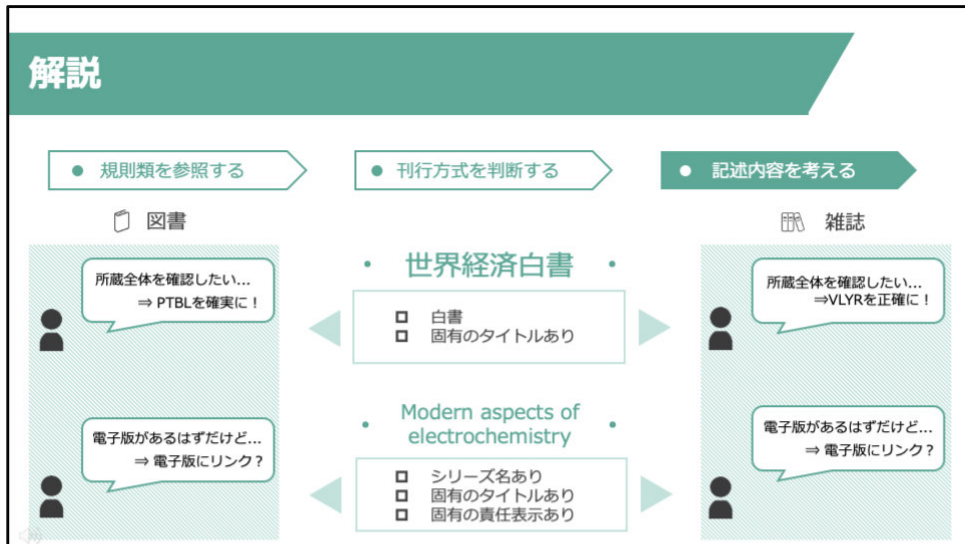
図書・雑誌両方の書誌を作成して相互参照できるようにするのが一番利用者にとって分かりやすいですが、所蔵メンテナンス作業等の問題で片方しか作成しないという選択も可能です。



ふたつの例題について、いくつかの解釈が可能となりますが、その一例を紹介しましょう。

まずは「世界経済白書」です。情報源の「世界経済白書」の下に「政策協調と活力ある国際分業を目指して」と固有のタイトルがありますので、検索できるようにするため、これをTRとして図書書誌を作成することができます。一方で、利用のありかたとして、個別のタイトルで検索されるよりも、「世界経済白書の〇〇年分」を求められることが多いと想定されます。そちらの利便性を重視すると、図書書誌よりも所蔵範囲の把握がしやすい雑誌書誌を作成の方が適切といえます。

次に、“Modern aspects of electrochemistry”を見てみましょう。基本的な考え方は「世界経済白書」と同じですが、こちらの方は著者が明示されているなど、より「図書」としての性格が強くなっているといえます。そのため、固有のタイトルで検索できるように図書書誌を作成した方が適切と考えられます。図書にした場合は、著者名まで検索対象となるので、アクセスポイントが増えることもメリットとして挙げられます。



書誌を作成する際には、「世界経済白書」を図書書誌として作成する場合は、どの部分を所蔵しているのかできるだけ分かりやすくするため、PTBLフィールドを確実に作成することが求められます。雑誌書誌の場合はVLJRで所蔵範囲を確認できますので、こちらを正確に記述しましょう。

また、「Modern aspects of electrochemistry」の場合は電子版も発行されています。（発行元のSpringerはBookとして扱っています。）自館が冊子体・電子版の両方を所蔵している場合は、電子版の書誌へのリンクについても考慮する必要があります。

書誌例

世界経済白書

📖 図書

GMD: SMD: YEAR:1988 CENTRY:ja TTLL:jpn TXTL:jpn ORGL:
 ISSN: NBN: LCCN: NDLCN: REPRO: GPON: OTHN:
 VOL: ISBN: 4172301622 PRICE: 2500 円 XISBN:
 TR: 政策協議と活力ある国際分業を自強して / 経済企画庁編 || セイサク キョウチョウ ト カツ リョクアル コクサイ ブンギョウ オ メザシテ
 PUB: 東京: 大蔵省印刷局、1988.3
 PHYS: h. v. 257. 冊. 208p.; 21cm
 PTBL: 世界経済白書 || セイカイケイザイ ハクシヨ <BBxxxxxxxx> 昭和62年版// a
 AL: 経済企画庁 || ケイザイ キカクチョウ <DA00901037>

雑誌誌
 GMD: SMD: YEAR: CENTRY:ja TTLL:jpn TXTL:und ORGL:
 ISSN: NBN: LCCN: NDLCN:
 REPRO: GPON: OTHN: NCID:AN10399785
 TR: 世界経済白書 || セイカイ ケイザイ ハクシヨ
 PUB: 東京: 大蔵省印刷局

📰 雑誌

PSTAT:d YEAR:1959 1988 CENTRY:ja
 FREQ:a REGLR: TTLL:jpn TXTL:jpn
 TR:世界経済白書 / 経済企画庁調査局編||セイカイケイザイ ハクシヨ
 VLJR:1959年版(1959)-1968年版(1968); 昭和44年版(昭和44)-昭和62年版(昭和62)
 PUB:東京: 星城堂: 1959.9-1988.3
 PHYS:冊: 21cm
 NOTE: 責任表示の変更: 経済企画庁調査局 (-1964年版)→経済企画庁(1965年版-昭和62年版)
 NOTE: 出版者の変更: 星城堂 (-1966年版)→大蔵省印刷局(1967年版-昭和62年版)
 NOTE: 「年次世界経済報告」<AN00309855>と同内容
 FID:00415500
 BHNT:CS:世界経済白書. 本編 / 経済企画庁編 <AN10087523>
 BHNT:CS:世界経済白書. 各国編 / 経済企画庁編 <AN10087534>
 AL:経済企画庁調査局||ケイザイ キカクチョウ チョウフサキョク <DA00093635>
 AL:経済企画庁||ケイザイ キカクチョウ <DA00901037>

世界経済白書の書誌例はこのようになります。

書誌例

Modern aspects of electrochemistry

📖 図書

GMD: SMD; YEAR:2014 CENTRY:us TTLL:eng TXTL:eng ORGL:
 ISSN:00769924 NBN: LCCN:2014932043 NDLCN: REPRO: GPON: OTHN:
 VOL: ISBN:9781493902880 PRICE: XISBN:
 TR:Electrodeposition and surface finishing : fundamentals and
 applications / Stojan S. Djokić, editor
 PUB:New York : Springer, c2014
 PHYS:xiv, 363 p. : ill. ; 25 cm
 PTBL:Modern aspects of electrochemistry / edited by J. O'M. Bockris and
 B.E. Conway <BA0069235X> no. 57 //a
 AL:Djokić, Stojan S. editor

📰 雑誌

PSTAT:c YEAR:1954 CENTRY:uk
 FREQ:u REGL:u TYPE:p TTLL:eng TXTL:eng
 ISSN:00769924 CODEN:MAECAO NDLPN: LCCN:54012732 ULPN:0M2434X
 GPON:
 TR:Modern aspects of electrochemistry
 VLYR:No. 1 (1954)-
 PUB:London : Butterworths
 NOTE:Imprint varies no.4-: Plenum Press
 NOTE:Editors: no. 1-<, 11> J. O'M. Bockris (with B.E. Conway, no. 3-<,
 11>)
 AL:Bockris, J. O'M. (John O'M.), 1923- <DA00781569>
 AL:Conway, B. E. <DA0157065X>
 SH:LCSH:Electrochemistry//K

📖 図書

GMD: SMD; YEAR:1964 CENTRY:uk TTLL:eng TXTL:eng
 ORGL: ISSN: NBN: LCCN:54012732 NDLCN:
 TR:Modern aspects of electrochemistry / edited by J. O'M.
 Bockris and B.E. Conway
 PUB:London : Butterworths

Modern aspects of electrochemistry の書誌例はこのようになります。

まとめ

検索語

上位のタイトル?
固有のタイトル?

所蔵範囲

図書はPTBLが必要
雑誌だと把握しやすい

関連性

電子形態の資料との
関連性を表現するか?

各館の事情に応じて適切な判断を行いましょう!

それでは、本課題の考え方についてまとめます。

利用者が検索する時に検索語として上位のタイトルを用いるのか、固有のタイトルを用いるのかという観点から、「世界経済白書」は雑誌書誌として作成し、「Modern aspects of electrochemistry」は図書書誌として作成することが適切という回答例を紹介しました。

一方で、所蔵範囲を把握しやすいことを重要視して、どちらの書誌も雑誌書誌として登録するという考え方もあります。さらに、CAT2020においては、親書誌のリンク形成は任意となりVOL積みもなくなりましたので、図書書誌で作成した場合は一体的に把握することが難しくなる場合も想定されます。そういうことを考慮し、雑誌書誌で登録するという考え方もあります。

各館の事情によっては、同じ資料でも違う結論が出るかもしれません。利用の形態や、所蔵している資料の数、自館の所蔵登録方針などに応じて、適切な判断を行いましょう。



最後に、このセルフラーニングで「目録システム書誌作成研修」を受けてみたいと思った方のために、受講手続きと研修の流れをご紹介します。



まず、NIIの研修申込システムから研修の申し込みをしてください。

本研修は実際に会場に集まっておこなう形式で、夏から秋にかけての時期に実施します。ただし、開催時の状況に応じてWEB研修形式となる場合もあります。

本研修で他の受講者と一緒にセルフラーニングで見てきたような課題に取り組んだ後、さらにWEB研修形式で「フォローアップ研修」を実施する予定です。

ぜひ受講してみてください。